

令和2年3月26日（木）

第2回美祢市新美東総合支所庁舎等整備計画 有識者会議 資料

美祢市新美東総合支所庁舎等整備基本計画の構成

第1章 新美東総合支所庁舎等整備計画の背景

- 1 美東地域の概要
- 2 現美東総合支所庁舎及び周辺の公共施設の現状と課題
- 3 新美東総合支所庁舎等整備計画の背景
- 4 新美東総合支所庁舎等整備基本計画の検討経過

第2章 新美東総合支所庁舎等整備の基本的な考え方

- 1 新美東総合支所庁舎等に求められる基本的な役割について
- 2 新美東総合支所庁舎の複合化の基本的考え方
- 3 美東地域の複合施設立地エリアのまちの構造
- 4 民間施設との複合化の可能性
- 5 先進事例

今回
資料

第3章 美東地域の複合施設（新美東総合支所庁舎等）の整備方針

- 1 複合施設の機能及び規模
- 2 複合施設の建設場所
- 3 敷地利用計画
- 4 複合施設の建築計画
- 5 環境計画
- 6 防災計画
- 7 ユニバーサルデザイン計画
- 8 交通アクセス計画

第4章 事業計画

- 1 事業スケジュール
- 2 概算事業費
- 3 財源の検討
- 4 ランニングコストの検討
- 5 既存施設・跡地の取扱い

資料編

第1章 新美東総合支所庁舎等整備計画の背景

1 美東地域の概要

美東地域（旧美東町）は、美祢市の東に位置し、東に山口市、西に秋芳地域、美祢地域の中心部、北に長門市、萩市、南に宇部市に接する人口約5000人の地域である。（図-1）平成23年3月、中国自動車道に直結する「小郡・萩道路」の開通により、交通の利便性が向上し、山口市、宇部市、萩市、長門市へ車で40分程度である。

旧美東町は、赤郷、大田、綾木、真長田の1町3村の合併で出来た町であり、その中心は大田であり、町役場がおかれた。かつて、銅の採掘が盛んであった長登銅山等の史跡があり、まちの中心には、明治維新への胎動のきっかけとなった大田・絵堂の戦いにおいて改革派の諸隊が陣を敷いた金麗社がある。まちの中央にある中通りは、かつて映画館などの遊興施設もあり、地域一番の賑わいを見せていた。地域の主な産業としては、農業であり、美東ごぼう等が特産品である。



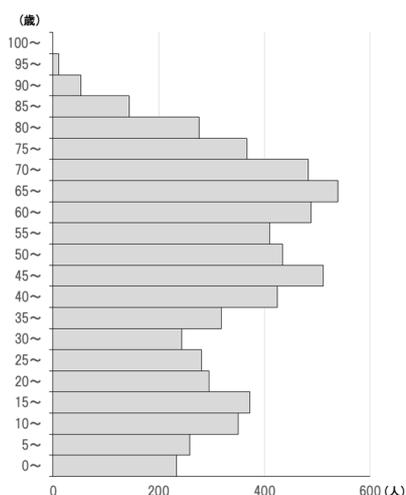
(図-1) 美東地域位置図

平成 20 年には、旧美祢市、旧秋芳町と 1 市 2 町で合併し、新しい美祢市が誕生した。合併前は、旧町役場周辺には様々な関連施設が立地していたが、本庁機能が無くなり、大田川沿いの県道に商業系の施設の立地が進むにつれ、かつてお店が軒を連ねた中通もほとんどが空き店舗となり、目に見えて町の空洞化が進んでいる。

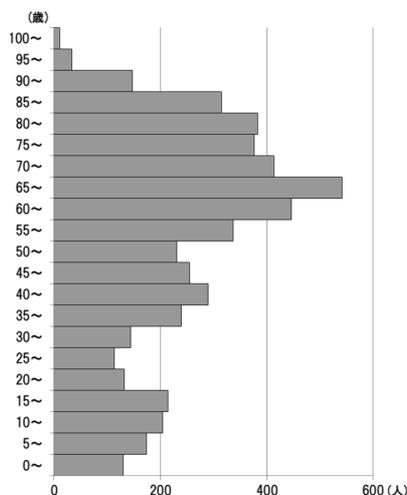
美東地域は、人口減少、高齢化の進行、出生数の減少という厳しい現実を抱えている状況にある。(表-1)

美東地域

平成 7 年 6,496 人

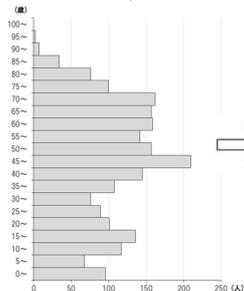


平成 27 年 5,133 人

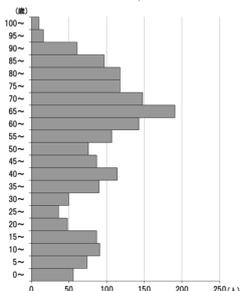


大田地区

平成 7 年 2,142 人

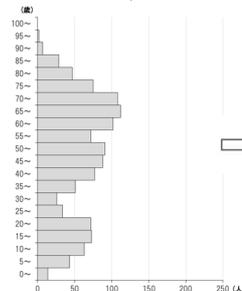


平成 27 年 1,818 人

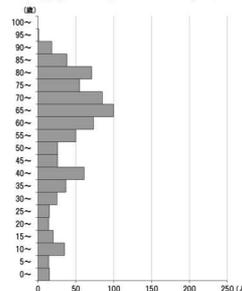


赤郷地区

平成 7 年 1,186 人

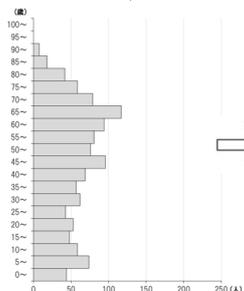


平成 27 年 779 人

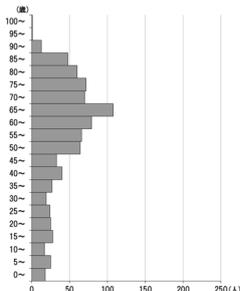


綾木地区

平成 7 年 1,179 人

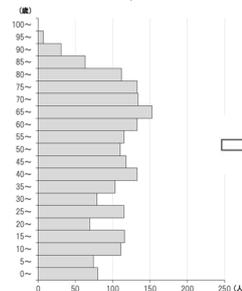


平成 27 年 838 人

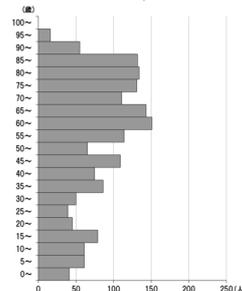


真長田地区

平成 7 年 1,989 人



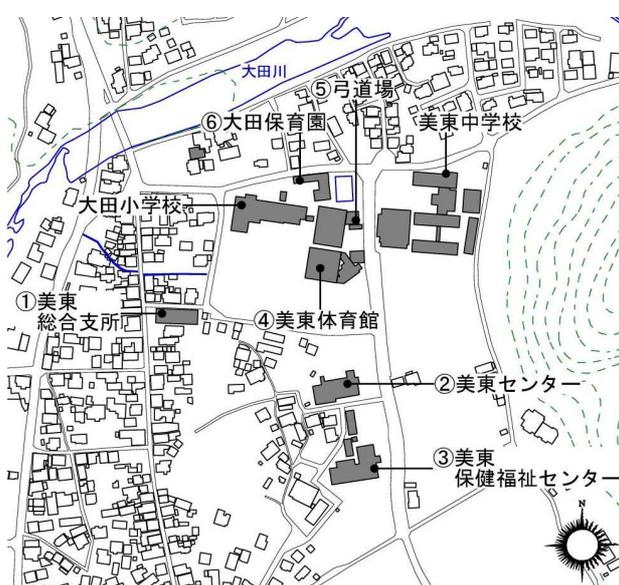
平成 27 年 1,698 人



(表-1) 国勢調査 小地域集計

2 現美東総合支所庁舎及び周辺の公共施設の現状と課題

庁舎の周辺には、公民館（美東センター）、体育館、保健福祉センターなどの公共施設や、小学校、中学校の教育施設が点在している。公民館（美東センター）は、昭和55年に、旧耐震基準に基づいて建てられている建築で、地域のコミュニティ活動の拠点として使われてきた。施設の性格上、安全性の確保が最優先されるべきで、その対策が求められている。保健福祉センターは、合併後、保健福祉行政の推進体制が変わる中で、当初の役割から変更されて、現在、児童クラブ、子育て支援関連施設、イベント的な利用がなされている。



(図-4) 周辺公共施設配置図

旧町の中心部には、その時々々の要請でつくられてきた公共施設が点在しているが、現在、築後40年以上経過した建物がほとんどで、一斉に改修の時期を迎えている。(図-4)(表-2)また、予想を遥かに超える勢いで進む高齢化、人口減少という状況のなかで、向こう50年、60年を見据えた公共施設の再配置計画が求められている状況にある。

そのような状況の中で、建替えを契機として、総合支所、公民館、図書館が複合した「新しいまちの中心」をつくることへの期待は大きいといえる。

	施設名	建築年月	経過年数	階層	延床面積	耐震基準
①	美東総合支所	昭和30年5月	64	3	1147.63㎡	旧
	美東総合支所別館	昭和33年12月	60	2	233.48㎡	旧
②	美東センター	昭和55年9月	38	3	1595.43㎡	旧
	美東図書館				110.96㎡	
③	美東保健福祉センター	平成12年3月	19	1	863.90㎡	新
④	美東体育館	昭和49年3月	45	2	1183㎡	旧
	トレーニング室	昭和57年12月	36	1	65.70㎡	
	便所	昭和57年12月	36	1	15.79㎡	
⑤	美東弓道場	昭和50年10月	43	1	88.29㎡	旧
⑥	大田保育園	昭和51年2月	43	1	450.13㎡	旧

(表-2) 周辺公共施設の概要

・現状の美東総合支所



机に仕切りがなく、プライバシーが確保されていない



執務空間が暗い、案内表示がわかりづらい

美東総合支所庁舎、美東センターとも旧耐震基準で建てられ、いずれも耐震改修が必要であるという状況の中で、総合支所機能、美東センターが担う公民館機能、図書館機能（図-3）を一体的に整備するという基本構想に基づき複合施設として整備を進めることになった。建替えの必要がある複数の公共建築をまとめて計画出来ることは向こう 50～60 年に渡って地域住民に対する公共施設サービスの基本的な方向を決めてしまうということであり、その計画策定には、住民の声を集めて取り組んで行くことが求められているといえる。今後、人口減少社会の中で、地域で暮らす市民にとって「くらしの中心」としての役割を担う公共施設にはどのような機能が備わっているべきなのかを地域住民の声を取り入れながら協働して計画を進めて行く必要があるといえる。同時に、民間の関連機能を取り込みながら複合化の方向を探り、コンパクトで効率の良い施設としてのつくり替えを通じて、新しい地域の拠点をつくり直していくことが、喫緊の課題となっている。

・現状の美東センター



子どもたちの待ち合わせ場所となっているロビー



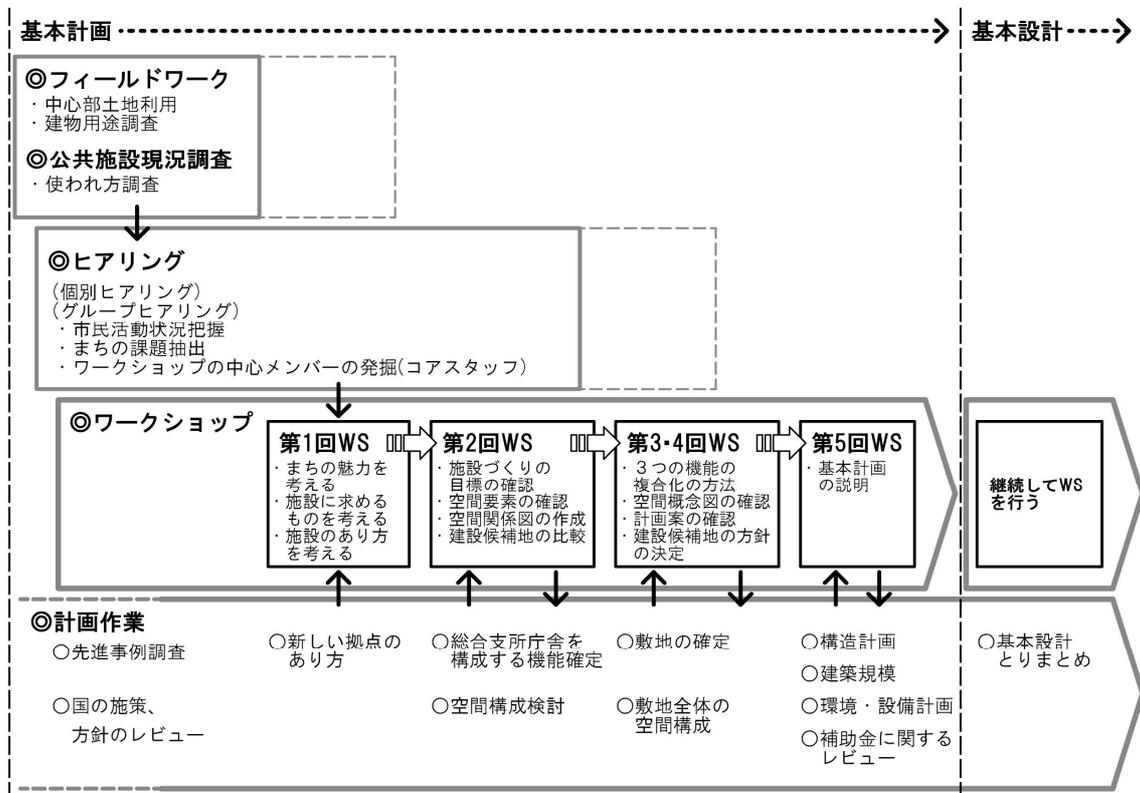
奥まった位置にある美東図書館

4 新美東総合支所庁舎等整備基本計画の検討経過

令和元年7月に策定された新総合支所庁舎等整備基本構想においては、総合支所（行政施設）と、公民館（社会教育施設）と、図書館（教育施設）を複合化する方針が示されている。また、総合支所周辺を地域住民の日常生活と地域活動を支える地域拠点として位置づけ、市民へのきめ細やかなサービスを提供する場であり、地域振興の中核となる施設であると同時に、市民の生命と財産を護り、市民が安全安心に暮らせる生活環境を護るための拠点施設であることが期待されている。

以上のことから、庁舎等整備にあたって、1. 市民が訪れやすい環境づくり、2. 防災機能の向上、3. 施設の複合化、4. 地域振興、が基本理念として示されている。

基本構想で示された基本理念を実現するためには、基本計画の検討過程において、徹底した市民参加の元で、地域の将来を、住民が中心となり、行政、計画者などが一緒に考える協働のプロセスを経ることが重要であると判断した。そのため、地域の歴史やなりたちに関する資料や、現地の実態を確認するフィールドワーク等の客観調査から入り、市民ヒアリング、市民ワークショップでの協働作業という手順で進めた。（図-5）



(図-5) 計画の進め方

2) 住民ヒアリング

住民の主体的な参加を確実なものにするために、まず、主要な活動団体や個人にヒアリングを実施し、それぞれが日常の活動の中で感じる地域の課題について意見を集めると同時に、今後、ワークショップ等に参加し一緒に考えて頂く市民の掘り起こしを行った。(表-3) ヒアリングに対応してもらった市民は、ワークショップのコアスタッフとして、ワークショップ全般にわたって協働して検討を進めることが出来た。

開催日	内容	参加人数
11月13日	第1回ヒアリング	1
	第2回ヒアリング	2
	第3回ヒアリング	2
	第4回ヒアリング	1
	第5回ヒアリング	1
	第6回ヒアリング	1
	第7回ヒアリング	2
	第8回ヒアリング	1
11月14日	第9回ヒアリング	2
合計		13

(表-3) 市民ヒアリングのスケジュール

ヒアリングの内容は「まちの現状と抱える課題」「まちにはこんな魅力がある」「こんなまちにできたらいいネ」「こんな新しい複合施設にできたらいいネ」「どこに建てるかが重要だ、候補地について」の大きく5つに分類して以下に整理し、以降のワークショップのプログラム(検討内容)に活かした。

まちの現状と抱える課題

- 1 人が少ない、子どもを見かけない
- 2 買い物や食事が大変!
- 3 子育てに不安がある
- 4 ふらっと立ち寄る場所や居場所がない!
- 5 活動を発表する場、ふれあうきっかけとなる場、みんなが気軽に使える場がない!
- 6 道の駅はみんなの居場所になっていない?
- 7 大雨で浸水するのは川上から!

まちにはこんな魅力がある

- 1 交通の便が良い、大田は美東の中心地!
- 2 なぜか懐かしい感じがする中通り
- 3 豊かな自然と人を呼び込む観光資源がある

こんなまちにできたらいいネ

- 1 子供にやさしい、子育てしやすい町にしたい
- 2 高齢者が生きがいを見つけ、いきいきとして暮らせる町にしたい

こんな新しい複合施設にできたらいいネ

- 1 複合施設の位置づけをしっかりと検討しながらつくりたい
- 2 みんなでつくり、大切に使う複合施設にしたい
- 3 ふらっと立ち寄れて、集まることができる大きな屋根のかかった広場！
- 4 明るく、分かりやすい、プライバシーを確保した総合支所！
- 5 子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる、みんなの居場所になる公民館！
- 6 みんなが利用できる、建物の顔になるような明るい開かれた図書館！
- 7 災害時に頼りになる複合施設！

どこに建てるかが重要だ、候補地について

・道の駅周辺につくる

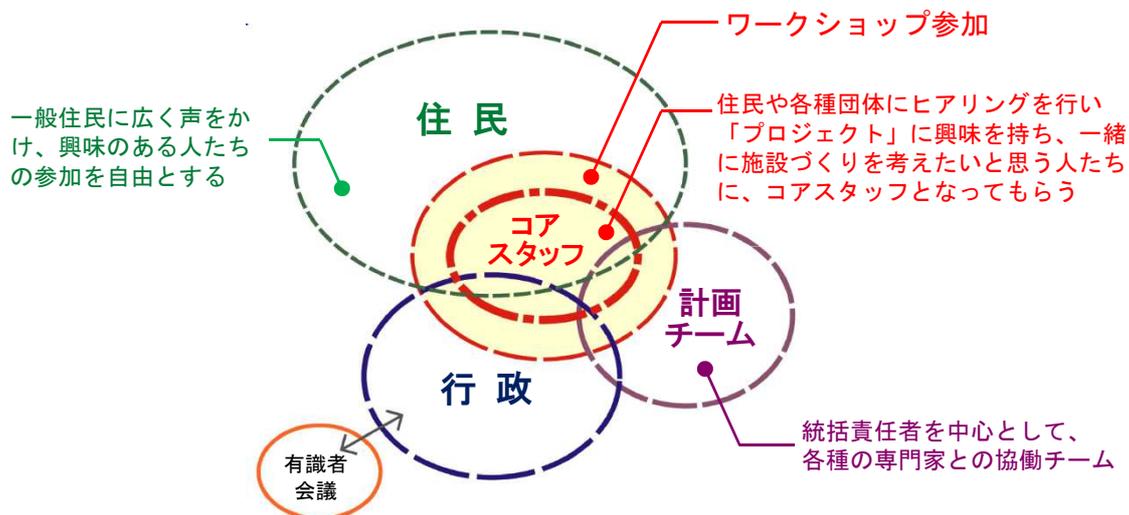
- 1 買い物のついでに利用できる、高齢者にやさしい複合施設
- 2 美東地域の中心、観光拠点としての新しい複合施設
- 3 新たな流れを呼び込むきっかけになる新しい複合施設

・美東保健福祉センター周辺につくる

- 1 子どもたちの居場所になる複合施設
- 2 子どもや高齢者にとって、車通りの少ない場所につくる安全な複合施設
- 3 保健福祉センターを活用して、コストを抑える

3) 市民ワークショップ

ワークショップは、コアスタッフ以外の市民にも広く声をかけて、自由参加の「この指とまれ」方式で行った。(図-7) 多くの市民の参加があり、オープンな雰囲気活発な協議を重ねることができた。(表-4)



(図-7) ワークショップの体制

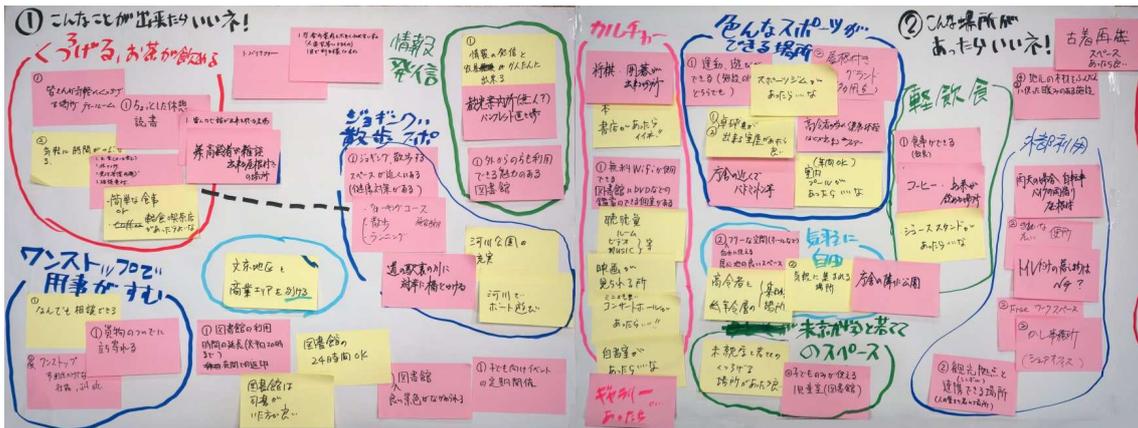
開催日		内容	参加人数
2019年12月15日	第1回ワークショップ	・まちの魅力、課題は何？ ・こんな複合施設になったらいいな！	30
2020年1月16日	中学校ワークショップ	・まちの魅力、課題は何？ ・こんな複合施設になったらいいな！	29
1月17日	第2回ワークショップ	・こんな使い方ができたらいいな！ ・建物の機能とつながりを考えよう ・総合支所、公民館、図書館が複合することで実現できそうなことを考えよう	37
2月14日	第3回ワークショップ	・計画案の比較検討 ・建設候補地の比較検討	31
5月 日	第4回ワークショップ	・建設候補地の比較検討	
6月 日	第5回ワークショップ	・基本設計の説明	

(表-4) 市民ワークショップのスケジュール

・第1回ワークショップ

新しい拠点でどんなことが出来たら良いのか、どんな場所があったら良いのか、などについて意見を出し合った。出された意見は、施設づくりの目標と備えるべき4つの要素、目標を実現するために必要な機能、場所・空間として整理し、そのまとめは、第2回市民ワークショップで提示した。

(詳細は [を参照](#))



新しい地域の拠点が「…だったらいいネ！」をポストイットに書き、模造紙に張り付けて、意見を整理した

・第2回ワークショップ

第1回市民ワークショップの成果を確認し、必要な場所、空間がどのようなつながり、どのような配置だったら良いか、グループで議論しながら、空間の関係図を作成した。また、建設候補地についても、意見を交わした。

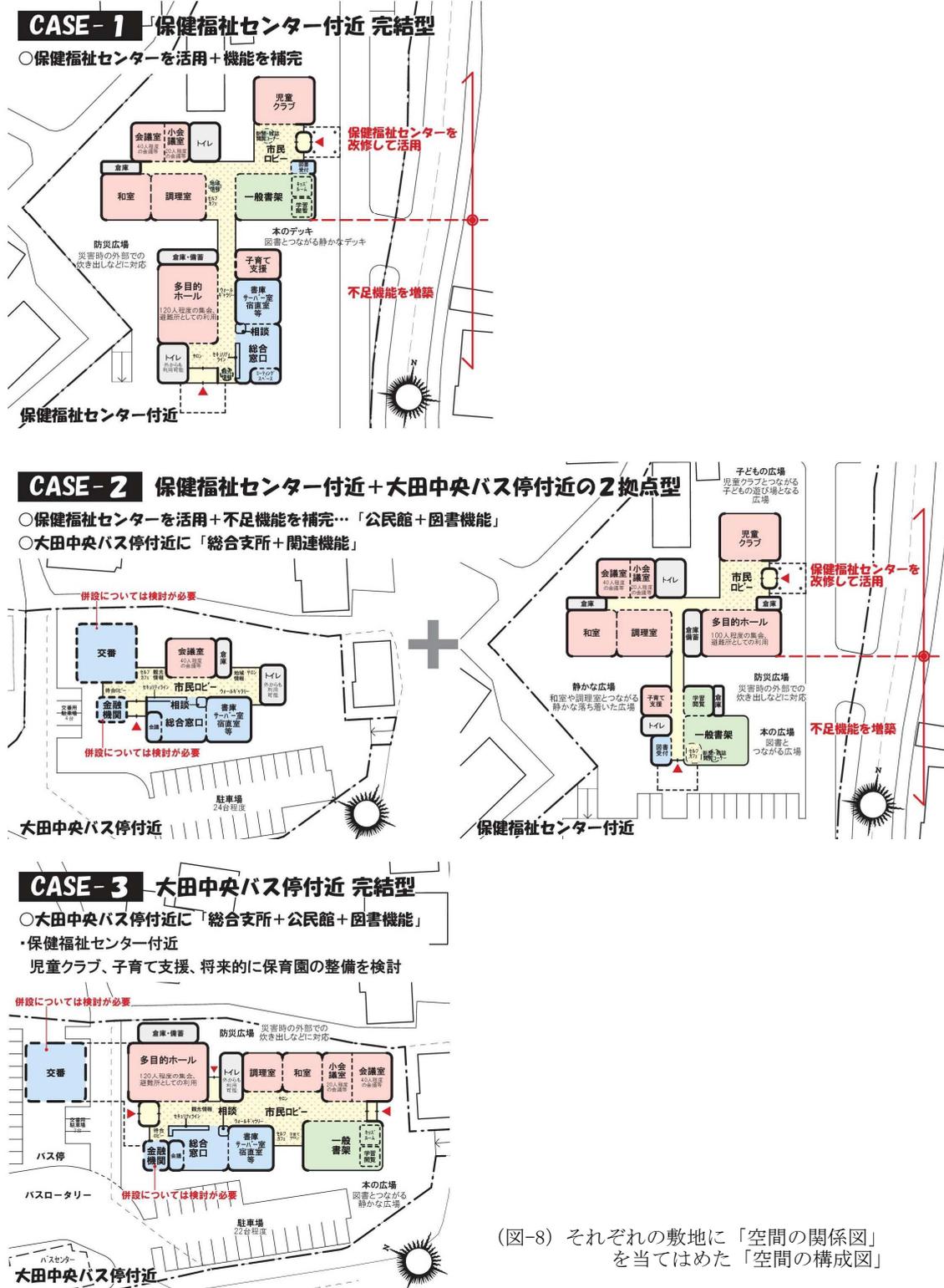
(詳細は [を参照](#))



関係を考えてつくった「空間の関係図」

・第3回ワークショップ

第2回市民ワークショップで作成した空間の関係図を基に、3つの空間の構成図を提案した。(図-8)ワークショップ参加者にそれぞれの案を評価してもらい、最もふさわしい案を選んでもらった。(表-5) (詳細は [を参照](#))



(図-8) それぞれの敷地に「空間の関係図」を当てはめた「空間の構成図」

3つの「空間の構成図」について、グループ毎に評価シートの項目に基づいて、それぞれ計画案を評価した結果、総合的にはCASE-1が高く評価された。(表-5)

数字は選んだグループ数を示す。

評価項目	CASE-1	CASE-2	CASE-3
1)気軽に立ち寄ることができそうなのは？	◎：1 ○：2	◎：2	◎：3
2)子どもたちが利用しやすいのは？	◎：6	○：2	○：1
3)高齢者が利用しやすいのは？	◎：1 ○：1	○：1	◎：5 ○：1
4)観光客・地区外の人利用しやすいのは？		○：1	◎：6
5)文化活動がより盛んになりそうなのは？	◎：4 ○：2	○：2	○：1
6)図書館が使いやすいそうなのは？	◎：3 ○：1	◎：2	◎：1 ○：1
7)管理がしやすいそうなのは？	◎：4 ○：2		◎：1 ○：2
8)建設工事費が安くないそうなのは？	◎：6		
9)将来のまちづくりがうまく行きそうなのは？	◎：3	◎：1 ○：1	◎：2 ○：2
10)避難所として安心して使えそうなのは？	◎：5		◎：1
グループ毎の総合評価	グループ1 グループ2 (グループ3) グループ4 グループ5	(グループ3)	グループ6

※グループ3についてはCASE-1とCASE-2で意見が割れた。

(表-5) グループ毎に「空間の構成図」評価項目集計表

次に、個人の意見として3つの案について評価は下記の様な結果であった。

CASE-1	CASE-2	CASE-3
14人	5人	8人

「気軽に立ち寄れそう」「高齢者や観光客、大田地区外の人々が利用しやすい」という評価項目ではCASE-3が評価を得たが、その他の評価項目ではCASE-1が評価を得る結果となった。総合的にCASE-1を選んだグループは「用地の取得が必要ない」「既存保健福祉センター活用による建設工事費の削減」などの整備にかかるコストを抑えることができるという利点を主な選定理由として挙げていた。

但し、この段階では、敷地取得のための細かな条件や、複合する可能性のある民間施設に関する具体的な情報など、最終判断するために必要な要素が揃っていない状態であり、十分な資料を用意し、再度評価すべきであるという判断となっている。

4) 美東中学校ワークショップ

地域の新しい拠点づくりを考える市民ワークショップが進んでいる中、地域の将来を担うことになる中学生は、今、何を考え、何を求めているのかを探ろうということで、自分たちが住んでいる地域の良さをどのように感じているのか、また、何を課題と感じているのかについての意見を出し合った。自然環境の豊かさ等について多くの生徒が高く評価している点や人が集まる賑やかな場所が無いことに対する不満等も持っていることが分かった。

これから整備する地域の新しい拠点施設に対しては、明るく入りやすい施設にしてほしいという意見や、イベントが出来る場所が欲しい、個人や友達と一緒に勉強したり本を読んだりするゆったりした図書館が欲しい、カフェ、飲食店等のお店が欲しい、SNSで地域の情報発信をしたい、雨風をしのげる快適なバス停をつくって欲しい等の「気軽に集まることができ、みんなの居場所となる場所」という意見が出た。(図-9)



中学生の視点でまちの魅力や改善してほしいところをまとめた



中学生が新しい施設に求めているものを話し合いながらまとめた

- ・ 個人や友達と一緒に勉強しやすい、ゆったりとした図書館にしてほしい
- ・ だれもが気軽につろげるカフェのような居場所がほしい
- ・ 地元の特産品を利用した食事が食べられる場所がほしい
- ・ イベントなどができ、子どもでも利用しやすい活動の場をつくってほしい
- ・ 雨風をしのげ、快適に待ち時間を過ごせる場所がほしい
- ・ SNSを使って、地域情報の発信をしてみたい
- ・ 自然と触れ合える外部空間がほしい
- ・ まちなかに運動ができる場所、軽く飲食や買い物ができる、遊べる場所が増えてほしい

(図-9) 美東中学生が新しい拠点施設に求めているもの

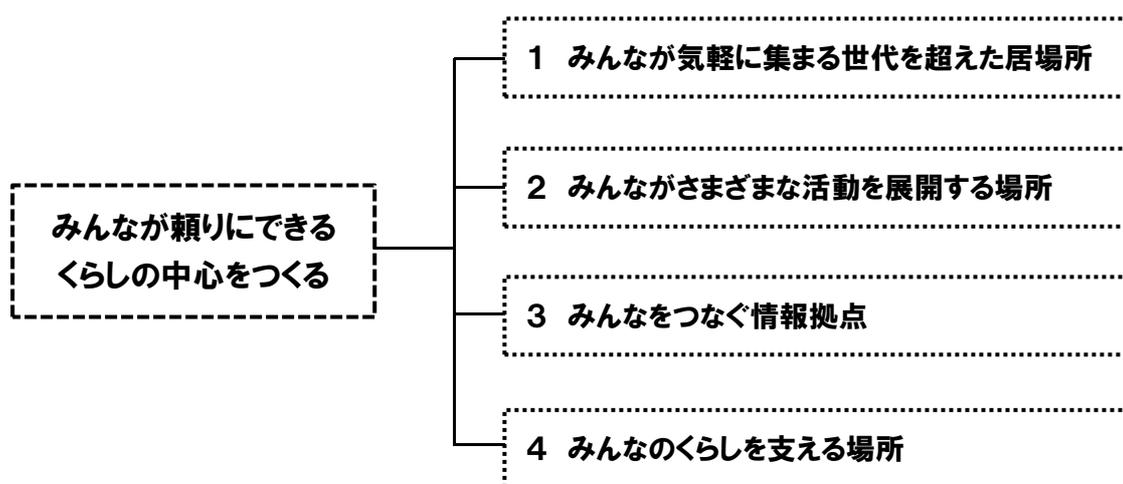
第2章 新美東総合支所庁舎等整備の基本的な考え方

1 新美東総合支所庁舎等に求められる基本的な役割について

基本構想においては、総合支所周辺を、公民館や図書館等の複数の公共施設が立地する地域全体の住民の日常生活と地域活動を支える地域拠点として位置づけている。また、総合支所庁舎は、市民へのきめ細やかなサービスを提供する場であり、地域振興の中核となる施設で、更には、市民の生命と財産を守り、市民が安心安全に暮らせる生活環境を護るための拠点施設でもあると位置づけられている。新しい総合支所が、基本構想で示された基本理念を実現するためには、どのような機能が備わっているべきかについては、市民ワークショップにより更に議論を重ねた。

ヒアリングで聞き取った内容や、ワークショップで出された意見等を総合すると、かつてあった施設や機能が統合や廃止等で無くなり、地域で生活する市民にとって、買い物ができ、そこに行けば誰かに会えるくらしの中心が無くなってしまったことが大きな課題であるということが分かる。地域で暮らす市民が求めているのは、総合支所と。公民館と、図書館という公共施設をまとめてつくるという事業をきっかけに、「みんなが頼りに出来るくらしの中心を再生する」ことである。その目標を実現するために、その中心に備わっているべき要素として、「1 みんなが気軽に集まれる世代を超えた居場所」「2 みんなが様々な活動を展開する場所」「3 みんなをつなぐ情報拠点」「4 みんなのくらしを支える場所」の4つが備わっている必要があることが確認できた。(図-10)

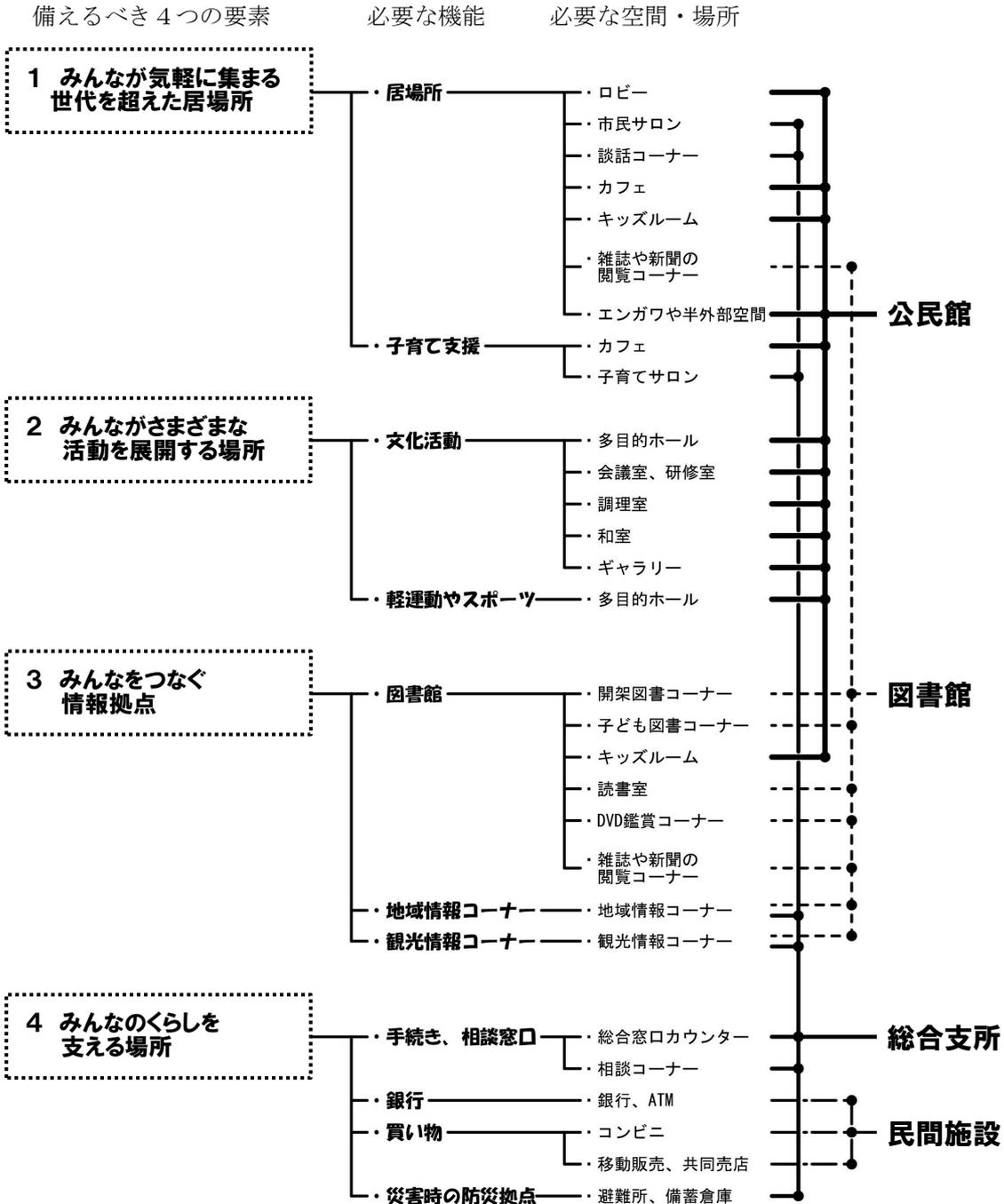
地域の新しい拠点づくりの基本目標と備えるべき4つの



(図-10) 施設づくりの目標と備えるべき4つの要素

2 新美東総合支所庁舎の複合化の基本的考え方

市民ワークショップ等で確認できた地域のくらしの中心となる場所に備わっていた方が良く考える4つの要素を実現するためにどのような機能が必要かについて、引き続き市民WSで議論を重ね、複合施設の中に取り込む場所や空間の構成について、基本的な考え方をまとめた。(図-11)

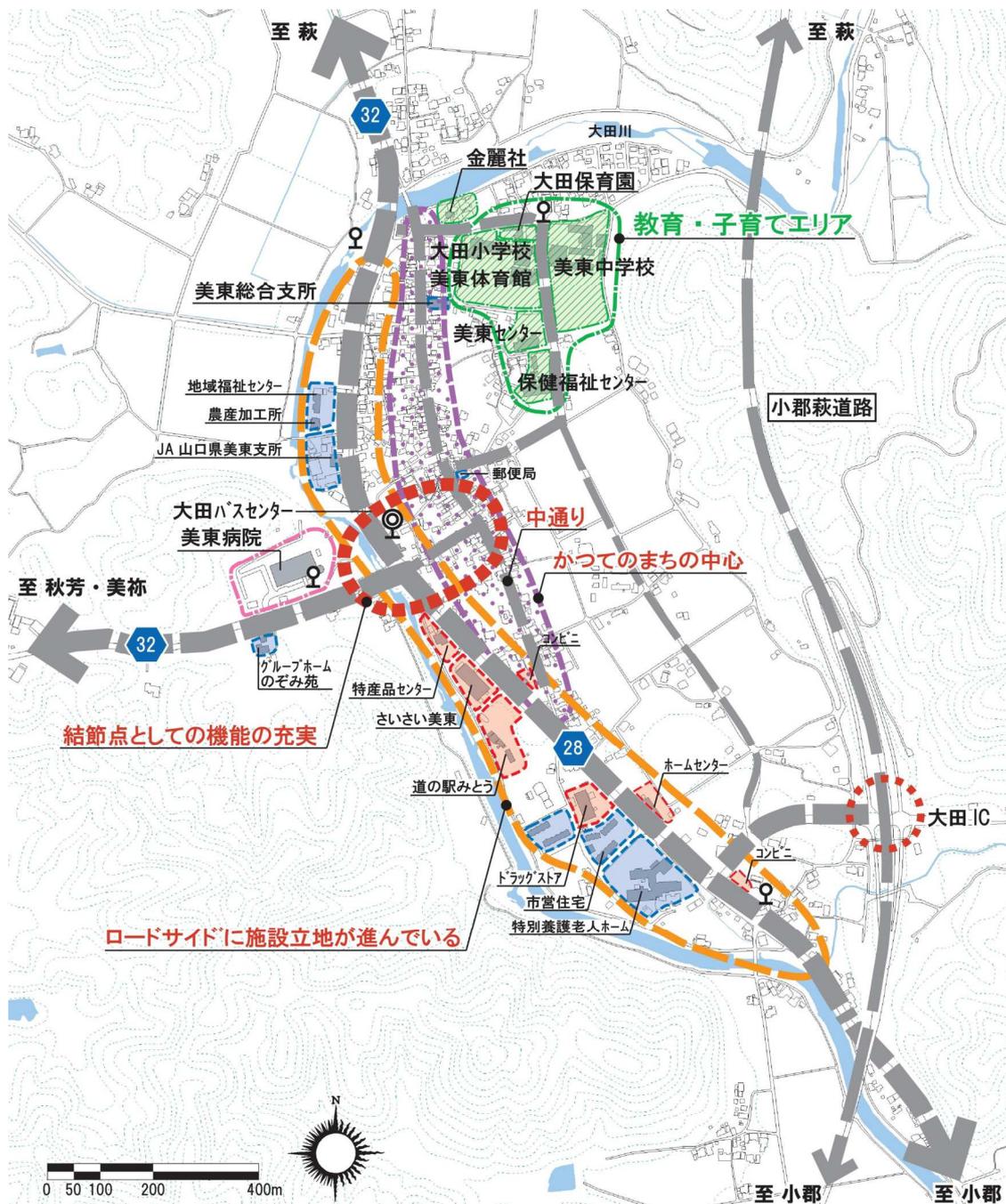


(図-11) 新しい施設が備えるべき要素と基本機能

3 美東地域の複合施設立地エリアのまちの構造

・かつての中通り

中通りは、かつて多くの商店が軒を列ね、近郷近在の賑わいの中心であった。昭和40年代までは映画館等の遊興施設もあり、通りにはバスも通っていた。中通りに面して、町役場が整備され、周辺には関連する施設等が立地していた。中心部には大田バスセンターができて、山口、小郡、萩、美祢などをつなぐ地域の交通の要衝となっていた。



(図-12) まちの構造と新しい拠点の役割

・まちの構造の変化

中通りと並行して大田川沿いに県道が出来ると、道沿いに施設の立地が進み、町の中心が次第に県道に移動し、中通りは空き店舗が目立つようになった。賑わいの中心から少し離れた位置に、保育園、小学校、中学校、に近接して美東センター、保健福祉センター等の施設があり、子育てや教育に相応しいエリアが構成されている。県道沿いは、小郡、山口へのアクセスが良くなり、山口市へも通勤圏となり、常に外からの吸引力がかかった状態となっている。更に、小郡・萩道路ができたことにより、交通の便が良くなった。

・まちの現状と新しい拠点の役割

今後、美東地域のまちづくりを考える上で、県道沿いをどのようなまちにして行くかが極めて重要で、その鍵を握っているのが、県道 28 号と県道 32 号が交わり、中通りと接する場所の地域の結節点としてのつくり方であるといえる。

その重要な役割を担っているのが、拠点施設であるといえる。(図-12)

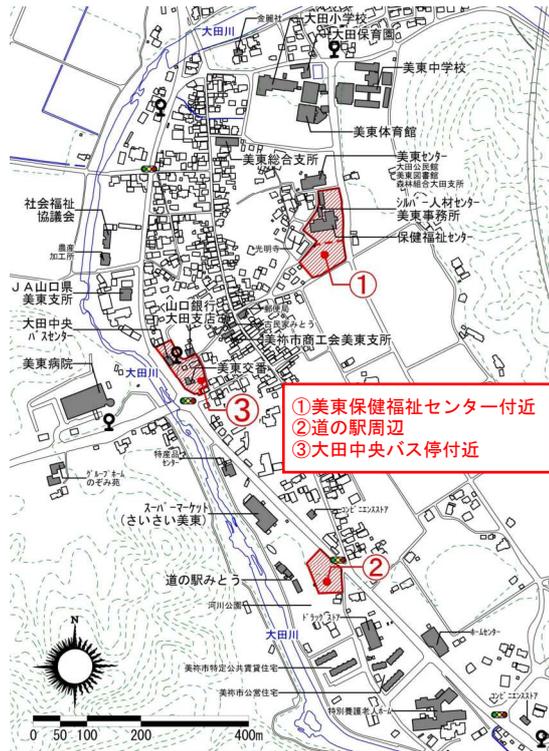
・建設候補地について

建設地として、3カ所が候補地として挙げられており(図-13)、どこに新しい拠点施設をつくるかは、重要な検討課題である。

候補地①：美東保健福祉センター付近

候補地②：道の駅周辺

候補地③：大田中央バス停付近



(図-13) 建設候補地一覧

・建設候補地の条件の比較

建設候補地を様々な観点から条件整理、比較検討を行った。(図-14)

	①美東保健福祉センター付近	②道の駅みとう周辺	③大田中央バス停付近
建設候補地敷地図			
用地取得	市有地のため用地取得の必要なし	◎ 民有地のため用地取得が必要	× 一部私有地のため用地取得の必要 ※計画内容によっては一部、私有地用地取得が必要
公共交通の利便性	バス停が遠い、公共交通機関が遠い	× 県道沿いに位置し、バス停が比較的近い	○ バスロータリーと一体的に計画することが可能
車での利便性	県道から離れた奥まった位置にあり、建物の位置が分かりにくい	△ 県道沿いのため、建物の位置が分かりやすい	○ 交差点に面するため、建物の位置が分かりやすい
徒歩での利便性	比較的周辺は車通りが少なく、安全に徒歩でアプローチできる	◎ 交通量の多い県道を渡らなければならないため、お年寄りには大変	△ 中通りに近く、安全に徒歩でアプローチできる
土砂災害特別警戒区域	一部あり(保健福祉センター玄関付近)	△ なし	◎ なし
洪水浸水区域	浸水区域に該当しないが、美東センターまで0.5m程度の洪水浸水区域となっている	○ 0.5m程度の洪水浸水区域となっている	× 0.5m程度の洪水浸水区域となっている
周辺施設との関係	・ 工事期間中、保健福祉センターが利用できない ・ 保健福祉センターとの複合化が可能 ・ 周辺に保育園、小学校、中学校、美東体育館があり、教育エリアとして一体的に整備ができる	・ 民間事業者の進出の可能性がある ・ 道の駅やサイサイ美東が周辺にあるため、買物のついでに施設を利用することが可能 ・ 河川公園と一体的に整備することで、こどもの遊び場として活用できる	・ 用地取得について検討が必要 ・ 美東交番との複合の可能性があるため、施設のついでに利用が可能 ・ 福祉センター、JA、美東病院などとの連携がしやすくなる

(図-14) 建設候補地の比較

4 民間施設との複合化の可能性

地域の新しい拠点をつくり直す際に、近くにあると利便性が向上すると考えられる民間の施設との複合化の可能性について検討した。複合化の方法については、合築、テナントとして入居等の方法が考えられるが、可能性のあるものに関しては、速やかに具体的な協議を進める必要がある。

(今後、具体的な協議が進み次第、修正し、確定させます。)

- ・ 山口銀行大田支店
- ・ 美東交番
- ・ 美祢市商工会

5 先進事例

近年整備された総合支所庁舎の多くは、行政支所と関連する他の機能を複合させて整備する傾向が顕著である。地域の空洞化が進んでいる状況を受けて、いくつかの施設を複合させることで新しく地域の中心をつくり直して行こうという考え方が背景にある。ここでは、近年整備された総合支所庁舎の中から、同程度の規模の事例を集め(表-6)、主に複合化の考え方を参考としている。

		山陽小野田市厚狭地区複合施設	岡崎市額田支所周辺施設	越前市今立総合支所	豊田市藤岡支所・交流館	光市大和支所	山口市佐山地域交流センター	豊川市小坂井地域交流会館
複合している機能	総合支所	400	830	400	480	65	90	205
	公民館	530	370	880	950	550	550	820
	図書館	580	200	-	110	180	70	400
	その他 ()内数値は、別棟建物による面積	体育館(別棟) (840)	社会福祉協議会	商工会	-	コミュニティ協議会	社会福祉協議会等	児童館
		保健センター(既存、別棟) (600)	シルバー人材センター	-	-	消防団詰所、車庫(別棟)	消防団詰所、車庫	-
	共有部分	600	490	230	1,330	950	190	990
合計	2,110	1,890	1,830	2,870	1,790	1,040	2,820	
構造	RC造	RC造、木造	RC造一部S造	木造、RC造一部S造	S造	RC造	S造	
階数	2階建	2階建	平屋	2階建	2階建	平屋	2階建	
蔵書	69,000	15,000	-	-	21,597	-	-	
建設工事費(千円)	1,456,730	922,391	750,000	1,414,441	600,000	700,000	1,560,000	
m ² 単価	-	488	500	493	335	-	553	
完成年月	2015年6月	2017年12月	2018年8月	2019年3月	2019年3月	2019年8月	2020年度完成予定	
複合化の特徴と周辺施設	支所、公民館、図書館からなる複合施設に体育館、保健センター(既存)が別棟で併設されている。また、敷地に隣接して、社会福祉協議会や医院等が立地している。	支所、公民館、図書館からなる複合施設。支所内にシルバー人材センター執務室が同居している。また、敷地に隣接して、社会福祉協議会、消防支所が立地している。	支所、公民館、商工会からなる複合施設。敷地に隣接して、図書館(1,000m ²)、歴史民俗資料館(380m ²)、芸術館(2,500m ² 、ホール600席)等が立地している。	支所と、図書コーナーを持つ交流館の合築。支所の2階は観光協会、商工会、シルバー人材センターの事務室が同居している。また、敷地内にバスターミナルが整備されている。	支所、公民館、図書館の複合施設。支所部分にコミュニティ協議会が同居。また、別棟で消防車庫、消防詰所等が併設。敷地周辺には総合病院、山口銀行等が立地。	支所、公民館、図書館コーナーのほか、地域づくり協議会と、地区社会福祉協議会が同居している。また、防災拠点として、消防車庫や詰所も合築している。	支所、公民館、図書館と児童館からなる複合施設。敷地周辺には小、中学校や保育園が立地している。	
備考	工事費は、解体工事費、外構工事費等も含む		事業費は基本計画時の金額および坪単価(計画当初面積1,500m ²)			工事費は、用地費、外構工事費も含む		

(表-6) 事例概要一覧